

日本応用地質学会東北支部  
「平成 8 年度総会」開催報告

小菅 芳男

平成 8 年度日本応用地質学会東北支部総会が、東北地質調査業協会の協賛をいただき、下記の内容で盛会の内に開催する事が出来ました。

協賛：東北地質調査業協会

日 時：平成 8 年 4 月 26 日  
13:00～17:00

会 場：ホテル白萩「錦の間」

参加者：81名

内 容：支部総会は、松岡氏（テクノ長谷）の総合司会により、北村支部長の挨拶で開始された。総会議事の中では、5年間支部長を務められた、北村先生が退任され、顧間に就任され、新支部長には日大の田野先生が選任されました。

総会議事に引き続き、特別講演が行われました。講師は長年建設省土木研究所地質化学部でダム関係の研究・指導を行ってきた菅原捷氏（現建設技術研究所取締役）で「地質技術者がいかにダム建設に貢献してきたか」というタイトルで、ダム建設の歴史と、地質技術者の関わりを熱意を持って講演された。総会時には上記のような参加者であったが、講演時には聴衆は100名を越し、後部のベンチシートまで埋まる盛

会であった。内容は、応用地質学発展の歴史と、ダム建設技術の発展の関わりを、豊富な事例をもって説明された。

特別講演の後は、北海道支部からの参加もあり、「岩盤崩落」のテーマでパネルディスカッションが行われた。総合司会は大村氏（㈱大和地質）が行い、4人のパネラーと内容は下記の通りであった。

① 田野 久貴（東北支部長）：

「岩盤崩落の予測はいかに困難か」  
岩盤崩落解析のためのモデリング手法の紹介

② 大島 紀房（北海道支部

㈱構研エンジニアリング）：

「北海道の岩盤崩落」

2月に起こった豊浜トンネルの岩盤崩落事故について、豊富な写真と実際に調査に携わっている生々しい説明で、聴衆は食い入るように聴取していた。

③ 小菅 芳男

（八千代エンジニアリング㈱）：

「東北の崩落事例」

東北の崩落事例を、中～古生層の硬質岩盤、新第三紀のグリーンタフの別に事例紹介した。（東北では死亡事故までに

は至っていないが、岩手県金田一地区での昭和57年5月の崩落によるバス転落事故は有名)

④ 成田 賢(応用地質㈱) :

「岩盤の新しい調査法」

斜面の調査法として、ラジコンヘリやバルーンを用いて撮影した立体写真を基に、地形図の作成、岩盤モデルの作成→数値解析等の手法の紹介があった。

各パネラーの発表後、ディスカッションに移ったが、話題性の面で勝る大島氏に質問が集中し、再三にわたりOHPによる説明を行った。

パネルディスカッションの後は、前支部長の北村先生から「支部長在任5年間を振り返って」と題したご挨拶をいただき、会場からは感謝の拍手が轟いた。総会の最後は、田野新支部長の挨拶で締めくくった。懇親会：17:00からは同じホテル白萩内の「櫻の間」に会場を変え、懇親会が行われた。参加者は約60名と盛会であり、北村先生、特別講演の菅原氏、北海道支部の大島氏、根岸氏が話題の中心になり、北海道支部との交流についても意見交換が行われました。

(八千代エンジニアリング㈱)



北村支部長あいさつ



菅原氏記念講演



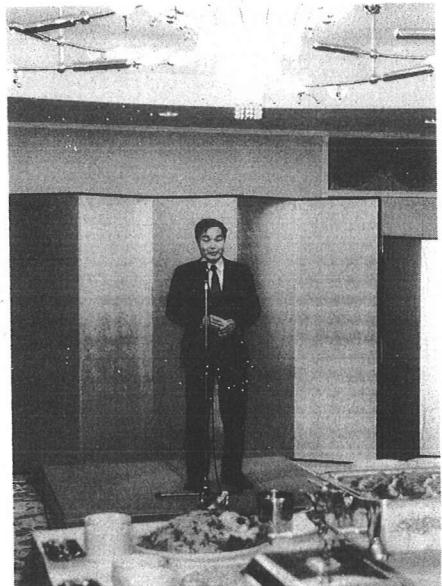
パネルディスカッション  
(パネラー北海道支部 大島氏)



田野新支部長あいさつ



パネラー全員  
左から 田野氏、大島氏、小菅氏、成田氏



懇親会あいさつ  
(北海道支部 根岸氏)